



鈴木のぞみ「Specimen of Shadow」  
2021  
石にサイアナタイププリント

## 鈴木 知佳・鈴木 のぞみ

### 「時点」

2021.8.29(sun) — 10.17(sun)



鈴木知佳「計り知れない時を計る」のためのドロローイング  
2021  
漂流物、浮石による模刻

この度、rin art association では、鈴木知佳、鈴木のぞみによる展覧会「時点」を開催いたします。

「時点」とは、時間の流れの中のある一点、人間・自然の営みと共に在り、実社会の動きや自然の推移と切り離すことの出来ない時間の一点を示します。本展では、事物の過ごす時間に目を向ける二人の作家により、日常の中ではとどめることの出来ない「時点」が凍結され、差し出されます。

鈴木知佳の「名付けられた色の終わり 名付けられない色のはじまり」では、緯度経度の示された路傍・海岸等で採取した砂から、1mm 足らずの砂粒と化したプラスチックやガラス、陶片等かつて何かだったものの欠片が識別され、色ごとに並べられます。「Plastic Landscape」では、海辺のプラスチック漂流物がゴミとして燃やされ、溶けて砂や木や触れた全てを呑み込んで固まり、陽に波に晒されて風化したものが、マクロレンズによって風景として写しだされます。各シリーズの新作を中心に、人工物という人が自然の中から手に入れた営みが人の手を離れ再び自然の時間の内へと還ってゆく様が、ファウンド・オブジェクトとして置き換えられます。

鈴木のぞみの「Monologue of the Light」のカラーポジフィルムによる新作では、物質が朽ちることで生じた小さな穴により光が束ねられ、そこに潜んでいた像がピンホールカメラの原理によって写されることで、事物のまなざしとも言えるような光景が可視化されます。新シリーズ「Specimen of Shadow」では庭や路端の石にサイアナタイプ感光液を塗布して感光性を与えることで、その石に近接する植物が落とす影が焼き付けられ、事物の記憶が標本のように採取されます。

二人の作家が提示する眼差しの在り方を是非ご高覧下さい。

鈴木 知佳 (すずき ちか)

1982年 東京都生まれ。2009年 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻美術研究領域修了。

写す／映す／遷すことを通して存在の起源を辿り、事物が体现している時—生成と消滅の繰り返しの内に在る、今—に臨もうと試みる。主な展覧会に「KOSHIKI ART PROJECT」(甑島、鹿児島、2007~12,16,17、各夏に滞在制作。自然と人の営みが交わる時点に目を向けフィールドワークを通し制作を重ねる)「Monologue of the Blank」(ex-chamber museum、東京、2019)「SICF20」倉元美津留審査員賞受賞(スパイラル、東京、2019)、「ここに在る不在」(gallery ON THE HILL、東京、2017)など。

鈴木 のぞみ (すずき のぞみ)

1983年 埼玉県生まれ。2015年 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。現在、同大学院博士後期課程在学中。何気ない日常の事物に潜む潜像のような記憶を、写真の原理を通して光の跡／痕として顕在化することを試みる。

主な展覧会に「Light of Other Days—土星の環」(void+、東京、2020)「MOT サテライト 2018 秋 うごきだす物語」(清澄白河、東京、2018)「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」(東京都写真美術館、東京、2017)、「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」(埼玉県立近代美術館、埼玉、2016)など。

2016年「現代美術の展望 VOCA 展 2016」VOCA 奨励賞受賞。平成 30 年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修。

[水—日] 11:00 - 19:00 [月—火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: http://rinartassociation.com